

明治三陸津波を想定した場合の被害想定調査結果（概要）

留意事項

本調査結果は沿岸全域の被害傾向を把握する観点から作成したものであり、数字は四捨五入により概数で示した。想定計算では多くの前提条件を踏まえており、実際の災害時には条件の違いにより結果が大きく異なる場合がある。避難所要時間、時期などの条件設定により調査結果が異なるので、数字に幅を持って記載している。

津波防災施設

「効果がある場合」・・・地震による津波防災施設に被害がなく、かつ、水門・陸閘などが津波到達前に全て閉鎖することができたケース
「効果がない場合」・・・地震や津波により津波防災施設が破壊され、水門・陸閘なども閉鎖できなかったケース

1. 津波シミュレーションの結果

最大遡上高 : 31.2 m (大船渡市綾里白浜)
第1波最短到達時間: 地震発生からおよそ26分後(宮古市姉吉)

2. 人的被害

死者数 : 約160 ~ 約1,300名
重傷者数 : 約90 ~ 約800名
中等傷者数 : 約200 ~ 約2,000名

時期	冬の夜間				夏の昼			
	効果がある場合		効果がない場合		効果がある場合		効果がない場合	
避難所要時間	35分	40分	35分	40分	35分	40分	35分	40分
死者数(人)	158	368	495	910	474	749	776	1,295
重傷者数(人)	89	204	313	534	331	491	532	812
中等傷者数(人)	214	495	758	1,287	800	1,188	1,282	1,964

避難所要時間とは、浸水域内から浸水域外への避難に要すると想定した時間である。

本報告書では、被害の概要を把握するため、目安として「35分」「40分」を設定した。

「冬の夜間」・・・建物内人口が最も多く、建物倒壊により閉じ込められ避難困難が多くなるケース。

「夏の昼」・・・海水浴客が海岸に集まり、津波からの避難が困難となるケース。

3. 建物被害

床上(全壊): 約6,700 ~ 約17,600棟
床上(半壊): 約3,800 ~ 約6,600棟
床上(軽微): 約2,900 ~ 約3,300棟
床下浸水 : 約2,000 ~ 約2,300棟

津波防災施設	効果がある場合	効果がない場合
床上(全壊)	6,747	17,628
床上(半壊)	3,802	6,551
床上(軽微)	2,876	3,299
床下浸水	2,334	1,953

4. 道路被害

(1) 使用困難道路延長

津波防災施設(効果がある場合) : 約270km
" (効果がない場合) : 約370km

(2) 緊急輸送道路の浸水地区数

津波防災施設(効果がある場合) : 28地区
" (効果がない場合) : 31地区

5. ライフライン被害

浸水するライフライン拠点施設数

津波防災施設	効果がある場合	効果がない場合
上水道浄水場	3	5
上水道ポンプ場	1	2
下水処理場	20	24
ガス貯蔵施設	1	1
変電所	0	0
電話交換施設	3	10